

寄稿 (一社)山口県産業廃棄物協会

寄稿

『青年部海外視察研修について』

UCDコンサルティング

代表 内田康博



平成29年2月23日から26日にかけてベトナムのホーチミン市に青年部8名（上村部会長、梁川氏、加藤氏、星山氏、櫻井氏、熊谷氏、山原氏、私）で視察研修に行きました。

初めての海外渡航の方もおられ福岡空港で集合した際には皆、期待に胸を膨らませていました。

全員スムーズに出国手続きを終えて機内に乗り込み、ベトナムのタンソンニャット空港まで約5時間のフライトでした。

到着

ベトナムはホーチミン市に到着したのは現地時間の14:00（日本時間16:00）頃で一番暑い時間帯でした。空港を出るとそこは熱気とエネルギーに満ちた世界が広がっており、このエネルギーを受け止められるのかと少し不安を感じるほどでした。私はすぐに半袖のポロシャツに着替えて心と体の準備をしました。それからバスに乗り込みホテルへ出発したとたんを受けた衝撃はまるで鈍器で頭を殴られたかのようなものでした。



バスの中から見えた風景は、私の想像からは大きく乖離したもので、そこに広がっていたのは発展へのエネルギーと圧倒的な都会性でした。

渡航前はぼんやりとしたイメージしかなかったのですが到着してみると想像以上の大都市でした。



それもそのはずで現地のガイドさんに何うとホーチミン市の人口は約900万人だそうです。私の住んでいる宇部市は約17万人なので雲泥の差です。

ホテルへ向かう道中で見かけたバイクの数の多さや交通ルールの複雑さにとても大きなカルチャーショックを受けました。初めて東京に行ったときのそれとはまったく違う何かを肌で感じました。

そして今から都市全体で発展して行くんだと言う莫大なエネルギーを受け止めるのに戸惑いを感じました。



『青年部海外視察研修について』

ホテルに到着してから市街地をランニングしていると日本との違いを強く感じるがありました。

凸凹の多い歩道、道路に放置されているゴミ、街の匂いなど日本とは異なる日常が溢れていました。ただそれは決して嫌な感じではなく異国の日常を感じることができた満足感に満ち溢れていました。



視察研修

翌日は朝から視察研修のために車で約1時間半をかけてピナ・キョウエイ・スチール社（以下キョウエイ社）に向かいました。そこはいわゆる工業団地で広い敷地を保有している工場が幾つもありました。



広い道路が直線的に広がっておりとても機能的な工業地帯で大型の機械や大量の材料などを保有した会社が隣接していました。キョウエイ社に到着すると担当者の方と岩佐博之社長がお出迎え下さいました。

上村部会長の挨拶のあと岩佐社長がベトナムの現状をお話し下さいました。現在のベトナムは日本でいう所の1960年～1990年の高度経済成長期やバブル期のような発展を遂げている事や、マンション・高層ビル建設がラッシュを迎えておりキョウエイ社の主力商品である鉄筋の需要が大きく見込める事など、現地にいるからこそ分かる情報を伺うことができました。

その反面工場の稼働については思い通りに行かない部分もあり試行錯誤を繰り返しながら工場を運営されている事を教えて頂きました。その後2組に分かれて実際に工場内を見学しました。

『青年部海外視察研修について』

とても広い工場内に大量のスクラップが保管されている風景は圧巻の一言でしたし、圧延工場では出来たばかりの鉄筋の熱気を感じることもできました。現地従業員の多くが20代の若者で日本の工場には無い活気に満ちた雰囲気でした。



廃棄物に関しては日本的な考え方を取り入れて適正処理を原則とし厳しく管理されているとのことでした。

現在のベトナムでは、まだ日本でいう廃棄物処理法が完全には整備されていないそうで、隣の現地法人の工場では汚泥を山積みしている現状を見ることもできました(ベトナムではこの山積みが直接的に違法ではないみたいですが・・・)。

そういった状況でのキョウエイ社の廃棄物への取り組みは本当に素晴らしいと感じました。そしてキョウエイ社の状況を視察して日本の廃棄物処理に関しては世界的に見ても素晴らしいのだと強く感じる事ができましたし、私自身も日本の廃棄物処理に多少なりと携わっていることに誇りを感じました。

その後青年部全員と岩佐社長と一緒に写真を撮って工場を後にしました。

彼らの汗や汚れを帯びた作業服を見ているとなぜか「負けてはいられない」という気持ちになりました。工場内は清掃が行き届いておりとても清潔で綺麗でした。

廃棄物を保管する箱も至る所に設置されており、その全てで分別を徹底していました。



観 光

視察研修の空いた時間を利用してホーチミン市の名所を回ることができました。

ホテルの近くにはホーチミン氏の像があり観光スポットになっていました。そしてそのすぐ横では日本企業がJVを組んで地下鉄を造っていました。

2019年の開通を目指して工事を進めているそうです。お昼ご飯にベトナムの名物料理「フォー」(米粉のうどんの様なもの)を食べました。

『青年部海外視察研修について』



今回の研修で合計5回フォーを食べましたがホテル・お店・屋台、どこ
のフォーもとても美味し
かったです。

新鮮なパクチー（香草）を使用したフォーは
とても癖になります。それからベントイン市場
に向かいお土産を沢山購入しました。

この市場には食料品はもちろん帽子やTシャ
ツや置物などあらゆる土産物が売っていました。
Tシャツを1枚買おうとしたら最初は150,0
00ドン（日本円で約750円）でしたが最終
的には70,000ドン（日本円で約350円）
まで安くなりました。

このようなやりとりもこの市場の名物だそう
で体験できたことが良かったです。

戦争証跡博物館ではベトナム戦争の壮絶な写
真や展示物を見学し、とても複雑な思いに駆ら
れました。ベトナムの歴史や文化に触れて、改
めてベトナム戦争がこの国の文化やアイデン
ティティーに大きく影響を与えているという事
を感じました。そしてそこが私達とは大きく異
なる点なのだと思います。



まとめ

まさに発展を遂げている最中のベトナムを目
の当たりにしてとてつもない衝撃を受けました。
そして日本の60年代～90年代もきっと同じ
ような熱気に満ち溢れていたのだらうと考える
となぜか懐かしい気持ちになりました。

見学させて頂いたキョウエイ社さんからもす
さまじいエネルギーを感じることができました
し、とても貴重な経験をすることができました。

そして参加メンバー全員ケガも病気もなく無
事帰国できた事が嬉しかったです。またこのよ
うな機会がありましたら是非参加しようと思ひ
ます。



星山 稔和
櫻井 元樹
加藤 喬士
ビチ・キョウエイ・スチール社
岩佐 社長様
熊谷 朝和
山原 一紀
上村 誠紀
梁川 徳彦
内田 康博